

# なつかしい未来の会

調査団体名	なつかしい未来の会（通称：なつみの会）	団体代表者名	代表 堀賢次郎
設立年	2015年2月	対応してくれた人の名前	堀賢次郎、川上貞夫、 安藤由美子
団体URL	<a href="https://natsukashiimirai-kamiyahagi.jimdo.com/">https://natsukashiimirai-kamiyahagi.jimdo.com/</a>	調査員	今村豊 小島徳文 大重隆太郎
活動拠点	恵那市上矢作	レポート作成者	大重隆太郎
取材日	2017年12月25日		

## 名前「なつかしい未来の会」の由来と活動内容

山里には、自然の恵みを活かして生きていくのに必要なたくさんの「知恵」と「技」、そして「心」のあり方が、受け継がれています。岐阜県恵那市「上矢作町」かつて林業と水力発電で栄えたこのまちには、今も山に生きる叡智を受け継ぐ人たちがいます。その叡智を受け継ぎつつ、あたらしい未来の山里をつくろうと、「なつかしい未来の会」は発足しました（通称：なつみの会）。

木馬（きんま）技術を駆使した木材の搬出を機に、その丸太を製材し、在来軸組工法によるコミュニティハウスづくり、ピザ窯、ツリーハウス等々、活動拠点の「なつみ広場」を整えています。

### 2017年の活動

3/18 キノコの菌打ち体験イベント：キノコ名人の熊谷さんの指導で約30人の親子などが参加しました。

5/7 親子でスギの皮むき体験：ツリーハウスづくりに向けて杉を間伐し、親子で皮むきを実施しました。

5/27 コミュニティハウスの建て前：設立時から準備を続け、小坂恵那市市長はじめ100名が集うことになりました。

7月～9月 森のピザ窯づくりとツリーハウスづくり：活動拠点の「なつみ広場」がカタチになってきました。

12/24には、ピザを焼いてクリスマスパーティーを開催！ 新年にむけて、門松づくりを体験！

## キャッチフレーズ

「山里の知恵と技と心をつなぎ、豊かな未来をつくる」を合言葉に「なつかしい未来の会」が発足

## 会のモットー（何を大切にしているか）

- ① 森林資源活用の実践と啓発
- ② 山里文化の伝承
- ③ 移住と交流の促進

## 設立から現在に至るまで変化したこと

堀、川上、安藤が発起人となって開催した「上矢作の森づくりを語ろまい会」をきっかけに設立。その時、堀代表は木馬（きんま）技術を駆使して雪害木を搬出しようとしているところでした。3人が協力を呼び掛けたところ、地元の有志が集まり、最初の活動となりました。以後、木馬による搬出の協働作業、見学会の開催に続いて、「搬出した木材を活用しよう！」ということなり、地元の堀井工務店さんのご協力により、製材機を借用することがかかないました。同時に退職されたベテランの職人さんの協力、指導により、本格的に製材を行うことになりました。

さらに柱、梁などの製材品を用いて活動拠点となるコミュニティハウスづくりが始まります。今年5月に建前を終え、これから内装と床を整えていきます。他にも楽しい仕掛けのツリーハウス、ピザ窯、ハイジのブランコなどが完成し、現在も山里を楽しむ「なつみ広場」の仲間を募集中です！！

## 連携している団体・専門家・自治体など

えなの森林づくり推進委員会（事務局：恵那市林政課）、（株）堀井工務店、仙人ren、地域の達人（シイタケ名人：熊谷三善氏、製材名人：中垣省三氏、堀紀晴氏）、恵那くらしサポートセンター

## 流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源の活用など)

様々な活動を通じて、堀代表はじめ、地域の達人の経験と技術を若い世代に伝承していきたい。

門松づくり体験を通じて、意外とほしい人が多く、需要があると気づいた(売れる手ごたえを得た)。他にも地場資源の活用を通じて収入を得て、活動資金としていきたい。

## 現在直面している課題

- ・シカ、イノシシの増加から獣害対策が必要(山菜用にコシアブラを植栽⇒すぐに食害を受けるなど)。
- ・地域自治体の地域計画との連携が不十分。
- ・枝虫対策など早急な山林保全に具体的な手立てが打てずにいる。

注)枝虫とは: スギノアカネトラカミキリのこと。

スギよりむしろヒノキの枯枝から侵入することが多く、幼虫の食害により製材するとピンホール状の食害跡が目立つ。立木が枯れることは少なく、柱などの製材品では強度的には問題がないが、材価は大幅に下がる。間伐の遅れや枝打ちをしなくなったことによる枯枝の増加が原因と考えられている。

## 今後やってみたいこと

- ・ヤギを飼い、乳からチーズを作ってみたい。炭窯づくり(木馬で搬出した間伐材を炭にも)
- ・「なつみ広場」が子供の遊び場として充実してきたので、「プレーパーク」や「森のようちえん」など、若い世代や親子が集えるような活動につなげていきたい。
- ・「イベントでたくさんの人を集めたい」とは、あまり考えていません。日ごろの活動を通じて、協力者が集い、同時に技術を学べる場にしていきたい。

### 【今後の具体的な活動内容】

- ・森のアスレチック・冒険遊び場づくり!
- ・コミュニティハウスの床板&内壁はり!
- ・森のピザ窯を、上矢作の川石で飾ろう!
- ・炭窯づくり・炭焼き体験

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

山里文化を伝承するため、山の活用技術や里で暮らす知恵などを受け継ぎたいと考える若い世代との出逢いを増やし、参加してもらえるようにしたい。子どもたちに山里に親しんでもらい、山里に生きる知恵と技を学んでほしいので、親子での参加を促したい。とりわけ、田舎への移住を考える方には、ぜひ体験に訪れてほしい。また、同じ理念や目的を持った団体との交流などを通じて、技術、知見を深めていきたい。

## チームオリジナルの質問

### <質問内容>

「なつみ広場」の土地はどうやって確保したのか。

### <答え>

昔はお寺であった土地。現在は不在地主のため、日頃の草刈りなどをすることを条件に自由に使用させていただいている。隣接して10ha程の森林もあるので間伐もしていきたい。

## チームオリジナルの質問

### <質問内容>

活動資金の確保の苦労は？

### <答え>

コミュニティハウスづくりに関して、市の助成金とクラウドファンディングサイトを活用して寄付などを呼び掛けた。その結果、直接の寄付を含め、約60万円の資金が集まった。総勢72人、うち具体物でのリターンをお渡しした方は1割ほどで、他は活動の趣旨に賛同していただいたの体験への参加と無償の寄付であった。この資金を元手に地元大工(棟梁)に発注できた(基礎工事などのできることは指導の下、自分たちの共同作業で実施)。これから内装などを整えていきたいが、資金不足により、資材購入などに苦労している。市、県の助成制度も活用したいが、地域自治区との連携不十分で活用できなかつたり、事務局の力不足で活用に踏み切れなかつたりしている。

## チームオリジナルの質問

### <質問内容>

活動(資金確保)をしやすくするため、NPO法人化してみては。

### <答え>

現在、主要なメンバーは5人で、人数も少なく、PCを使わない世代が中心のため、煩雑な事務や情報発信が充分に行えない状況にある。役割分担が可能な若いメンバーが加わらないと現時点では難しいと考えている。

## その他、伝えたいこと

### ○木馬(きんま)技術と小屋づくり(なつみの会HPより引用)

かつて重機がまだ普及していなかった頃、山からの木の搬出は馬か牛、または木馬(きんま)と呼ばれるソリを使い人力で行って来ました。かつては、山にその木馬が通るための木馬道がずっと続いていました。

木馬での搬出は、山仕事の中でも最もケガも多く、死者も少なくない危険を伴う労働です。しかしながら、人力だけで重機にも匹敵するような力で、重い木材を、非常に効率よく搬出することができる驚くべき知恵と技の結晶でもあります。

そして、木馬を曳いた経験のある方は、もうほとんどが70、80代となつてしまい今にも消え去ろうとしている文化遺産的価値のある森林技術です。その木馬道を、70年近く山仕事をしてきた本団体の代表の堀は、せっせと冬中かけて記憶をもとに復元したのです。そして、実際に一緒に山へ行った会員に、木馬を曳いて見せてくれました。その代表も、現在85歳。いつまで私たちに木馬道づくりと木馬曳きの技を伝授してもらえるか分かりません。

「なつかしい未来の会」では、代表の堀が伐り、木馬で搬出した材木を、地元唯一残る製材機でかつての技能職工の方に挽いていただき、地元の棟梁の指導の下で、共同作業で小屋づくりをしています。小屋づくりの過程すべてが、貴重な林業技術および木材加工技術の継承活動であり、完成した小屋がその後の地域の技術継承の場また多世代共創型の地域の居場所「コミュニティハウス」となるようにと考えています。

### ○堀代表の体験談や昔の矢作川水系の豊かな自然とその恵みのお話を興味深く、拝聴した(以下のとおり)。

戦後のいわゆる「拡大造林」により、特にこの上矢作地域では、スギ、ヒノキを植えすぎたことや、先人の教えを無視して、不適地にまでそれを行った。そして、材価の低迷により、間伐材が搬出されず、利用されず、間伐などの手入れが遅れ、結果、枝虫被害の広がりや風雪での倒木林の放置など山が荒れたままになっていることを危惧している。

また、下流にできたダムの影響により、アユなどが遡上できなくなった。昔の矢作川は普通にウナギが獲れる自然豊かな川であった。アマゴも少なくなった。魚道ではなく階段型のダムや堰堤の工夫によって、遡上率を上げられないだろうか。また、下流に下る習性のないイワナなら増やせるかもしれないと考えている。

写真



概要説明の様子



堀代表(製材所にて)



コミュニティハウス(これから内装などを整えていきます)



ツリーハウス



ピザ釜

## 写真・地図



「木馬(きんま)」による人力での木材搬出の様子

(2015年撮影 : 岐阜県恵那市上矢作町)



「なつみ広場」の概略図

「なつかしい未来の家」は  
コミュニティハウスの名称

## 2. 2017年度前半の活動

### ◆ 3/18 キノコの菌打ち体験イベント



2017年は、「森に親しみ、森の恵みを活かす知恵を伝える」がテーマとなる活動を続けています。

キノコ名人の熊谷さんにご指導いただいたキノコのほだ木づくりイベントでは、30人以上の参加者で大人も子どもも楽しく頑張りました。

町内からも町外からも、多くの千カウを借りて実現した現代の「結」のような「建て前」、山で木を伐るところからスタートした「森の遊び場」ツリーハウスづくり、たくさんの方が活動に参加してくれました。

### ◆ 5/7 親子で杉の皮むき体験



### ◆ 5/27 コミュニティハウス建て前



ピザ窯づくりでは、毎週末のように準備とご指導に足を運んでくださった奥野さん、ピザ窯仲間が少しずつつながり始め、10月に完成祝いを迎えます。

### ◆ 7月～9月 森のピザ窯づくり



### ◆ 7月～9月 ツリーハウスづくり

